

日吉南小学校保護者の皆様へ



カウンセラーだより

2021.3 学校カウンセラー

まだまだ寒い日が続きながらも、木々の蕾がふくらんでいたり、梅や早咲きの桜を目にすると、春を感じますね。早いものでもう年度末です。今年度はコロナの話題にあけくれた一年だったかと思います。“いいことがなかった”と思うことが多いかもしれませんが、ちょっとした“いいこと”を探してみるときっとたくさん見つかるでしょう。



小学生は人生の中でどんな時期なのでしょう。漠然と“思春期は大変そう”というイメージを持つと思いますが、どんな学童期を過ごすかが、その後の思春期に影響を与えます。学童期は大きな変化がない時期ですが、思春期の準備段階としてはとても重要な時期とも言えます。

幼児期は、人としての基本的な運動機能や言葉が急激に育っていきます。親の見守りの中で色々試しながら、自分を育てていくことになります。自分のペースでやりたいために、親を困らせることも多々ありますね。また遊びの形で自分から物事に働きかけたり、ほかの子どもとの関わりの中でルールや良心といった道徳的なものの基礎が作られていきます。小学校に入るとさらに生活空間が広がり、親から少し離れて集団との関係が強くなります。まだまだ親への依存が重要ではありますが、まわりの人や環境と関わりながら、認知機能の高まりを基礎に社会に必要とされる技術や能力を身につけていきます。こういった生活の中での様々な体験から、自分なりの考え方や生き方というものが少しずつ固まっていきます。

このように子どもが自分を作っていく時期に、親はどんなところを見ておけばよいのでしょうか。お子さんは自分の好みややりたいこと、思いや考えを持っていて、それを主張することはできるでしょうか。子どもが自分の欲求を知っている、選ぶ力を持っていることは大切なことです。またルールや役割に必要以上に従ったりこだわったりするのは、不安や自分の気持ちを見ないようにしている場合もあります。周囲の期待に応えようとすじたり、頑張りすぎたりといった傾向も、自分より他の人の気持ちを優先しているとも言えます。

子どもが失敗したり問題を起こしたりしないように無事に学校生活を送ってほしいという願いは、親としては当然のことかもしれません。しかし子どもが自分で考えた上での行動に失敗はつきものです。失敗を通して体験したことが成長の糧にもなるのです。

小さいながらも子どもは親とはまた違う独立した存在です。主体性が育つような体験を子どもが存分にできるよう、親をはじめとした大人は応援していきたいものです。



保護者の方もセルフケアを！